

早生の収穫適期は早まる見込み！

（高温登熟に対応して、遅れずに収穫を！）

- ・ 早生品種の出穂期は平年に比べ並～2日程度早く、収穫適期も平年に比べ3～4日程度早まる見込みです。
- ・ 気象予報では、向こう1か月の気温は「高い状態が続く」となっています。（8月8日新潟地方気象台発表の1か月予報より）

1. 早生品種の収穫開始予想日（8月8日現在）

出穂期		収穫めやすまでの積算気温 （本年）	収穫めやすに達する予定日 （アメダス地点別）	
			相 川	羽 茂
新潟次郎	7月20日	1,000℃	8月27日	8月28日
五百万石	7月24日	925℃*	8月29日	8月29日
こしいぶき	7月29日	925℃*	9月3日	9月3日

※日平均気温の積算から予想。8月9日以降は平年値を使用。

※今後の天候や栽培条件で期日は変動するため、収穫計画の参考とする。

* 早生品種は高温登熟年にあたるので、通常より50℃（2日程度）早めた。

2. 収穫までの管理ポイント

- (1) 早生品種のほとんどは高温登熟年にあたり、基部未熟粒の発生が懸念されるので、飼料用米以外は収穫開始までの積算温度のめやすを通常より50℃（2日程度）早め、刈り遅れないようにする。
- (2) 上表を参考に収穫計画をたて、飼料用以外は穂の籾黄化率85%を目安に収穫を始める。茎葉の色は考慮せず、必ず籾黄化程度で判断する。
- (3) 穂ぞろいが悪い場合は、遅い穂の登熟を待つと刈り遅れになるため、登熟が中くらいの穂を基準に収穫時期を判断する。
- (4) 早生品種は収穫期が8月下旬～9月上旬で気温が高く変質しやすいので、刈取り後なるべく早く乾燥機に張込み、日中は通風乾燥とする。また、乾燥作業は送風温度を下げ、2段乾燥など丁寧な乾燥を心掛ける。
- (5) 成熟期頃にフェーン等で籾水分が低下すると、胴割粒が発生しやすくなるので、乾燥調製作業を特に慎重に行う。